

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	15-085	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Does the social context of early alcohol use affect risky drinking in adolescents? Prospective cohort study.</p> <p>青年期前期の飲酒における社会的背景は青年期後期の危険飲酒に影響を与えるか？前向きコホート研究</p>		
執筆者		
Degenhardt L, Romaniuk H, Coffey C, Hall WD, Swift W, Carlin JB, O'Loughlin C, Patton GC.		
掲載誌		
BMC Public Health. 2015 Nov 16;15:1137. doi: 10.1186/s12889-015-2443-5.		
キーワード		PMID
飲酒、青年期、危険飲酒、過度の飲酒		26572739
要 旨		
<p>目的： 青年期における飲酒の社会的背景と危険飲酒との関連についての長期的なコホート研究はほとんどない。本研究では、青年期の前期における飲酒背景が、青年期後期の危険飲酒を予測するかについて検討した。</p> <p>方法： オーストラリアの前向きコホート研究の対象者のうち、14-17歳の1,943名を本研究の対象とした。飲酒の有無および、飲酒している場合は飲酒場所と頻度を調査した。すなわち、飲酒場所としては「自宅で家族と一緒に」「自宅で一人」「友達とパーティーの時」「公園あるいは車内」「バーあるいはナイトクラブ」のいずれかを尋ねた。アウトカムは、青年期前期および後期の危険飲酒（過去1週間の飲酒量が5杯/日以上 [アルコール10g相当]）、非常に危険な飲酒（男性20杯/日以上、女性11杯以上）の発生率と有所見率とした。</p> <p>結果： 過去1週間の危険飲酒は44% (95%信頼区間 [CI] 41-46%)の青年に認めた。青年期前期においては、「友達とパーティーの時」の飲酒が最も多く繰り返されていた (28%, 95%CI 26-30%)。また、「自宅で家族と一緒に」の飲酒の繰り返しは15%に認めた (95%CI 14-17%)。飲酒場所に関わらず、飲酒の繰り返しが青年期後期の危険飲酒リスクを高めた。この関連は、交絡因子で調整後も有意であった。同様の関連が、非常に危険な飲酒においても認められた。</p> <p>結論： 本研究の結果から、家族との飲酒はその後の危険飲酒を回避しないことが示唆された。親からの子供に対する飲酒制限の促しが、監視下、非監視下に関わらず、青年期における飲酒リスクを軽減する可能性が考えられる。</p>		